

## 薬学生実務実習対策研修に参加して

神奈川病院 薬剤科 鳥海 真也

今年度より改訂モデル・コアカリキュラム（以下、改訂コアカリ）に基づく実務実習が行われている。新しいカリキュラムでは患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践やチーム医療などの参画に必要な基本的な事項を習得することが求められる。そのため実習内容や評価方法などが変更となったが、既に実施している施設の取り組みを聞ける貴重な機会となった。

まず講義に先立ち、事前に行ったアンケート結果について、国際医療研究センター病院の寺門先生より報告をして頂いた。アンケートは研修会に参加した施設の実習の現状を答えるものであり、改訂コアカリに沿った実習スケジュールや病棟実習の時間配分、外部の部署や施設への見学などについての傾向が理解できた。本研修会の講義内容については、改訂コアカリへの対応について病院、薬局、大学とそれぞれの立場からお話をして頂き、最後にディスカッションを行った。まず、病院の取り組みでは、宇都宮病院の秋元朝行先生、成育医療研究センターの小村誠先生、埼玉病院の徳永秀美先生より報告をして頂いた。大幅に増加した病棟実習への対応や薬剤部科内での役割分担、学校との対応方法など具体的なお話をして頂いた。また、薬剤部科内で実習生の進捗状況を情報共有することが不可欠だと感じた。関信地区に属する施設的环境は様々であるが、それぞれが特徴を活かした実習内容を設定していた。

保険薬局における改訂コアカリへの対応について、アインホールディングス 医薬運営統括本部次長の月岡良太先生よりお話を頂いた。会社として学生が積極的に対人業務を行う環境を整

え、実習期間内に100人に服薬指導することを目標としていた。具体的には、実習生が指導したい処方箋に自らクリップを付け、意思表示をやすくしていた。調剤業務では患者の残薬確認や服用に適した剤形や一包化への変更等の「患者に寄り添った調剤」を目指すなど様々な工夫がされていた。また、エリアごとに実務実習担当者を配置していた。テキストについても自社で作成し、社内のイントラネットにより共有がされていた。

大学における改訂コアカリへの対応について、病院・薬局実務実習関東地区調整機構の伊東明彦先生（明治薬科大学）よりお話を頂いた。改訂コアカリ実施までの経緯や実務実習の意義、薬学実務実習に関するガイドライン、学習成果基盤型教育、概略評価などについて分かりやすくお話を頂いた。新しいカリキュラムでは薬学教育と実務実習が一本化され、大学・薬局・病院の連携がより必要となること、実務実習は臨床能力を磨く重要な機会と考えていることもわかった。伊東先生から「現場で働く薬剤師にはロールモデルになることを期待している」という言葉には考えさせられた。

当院の現状をお話すると、今年度は第3期に2名が実習を行った。本研修会が実習開始直後であったため、少しではあるが各施設のアイデアを参考にすることができた。具体的には、1日の実習内容や疾患別の指導回数を「見える化」し、実習生と薬剤科内で情報共有できたのは有用であった。

最後になるが、本研修会への参加を快諾して頂いた、小林薬剤科長をはじめスタッフの方々に感謝申し上げます。